

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ハッピー本厚木教室		2024年 10月 3日			
	チェック項目	はい		工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1	各部屋が狭い教室なので、運動プログラムを行うときはスペースがなくてもできるものを工夫している。	活動スペースを確保し、安全に留意しながら支援する。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		適切な職員配置ができるよう事前に打ち合わせしながら決めている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		注意がそれないよう部屋をすっきりさせた環境を整え、わかりやすい視覚的提示を心掛けている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	使える部屋や面談の部屋などを、都度割り振りしながら対応している。	エアコンの調子が悪く使用できない部屋があるので環境を整える。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		お子さまの特性に合わせて部屋を整えている。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		安定した支援を提供できるよう、随時職員研修を行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		職員間で情報共有し、改善策について話し合っている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		職員会議や面談を行い、そこで体験をもとに業務改善に散り組んでいる。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		評価結果を職員で話し合い、業務改善に取り組んでいる。また、評価結果をホームページや教室内に掲示している。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		各職員の専門性を深めるため、時間を作り研修に参加している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		個別支援計画をもとに支援プログラムを提供し、ねらいや目的もお伝えしている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		アセスメントでしっかり聞き取り、課題やニーズをもとに個別支援計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		個支会議には様々な職員が参加し、個別支援計画の内容について検討している。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		個支会議や事前の話し合いにより情報共有し、個別支援計画に沿った支援を提供している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		アセスメントのフォーマットの内容だけでなく、ご家庭の様子やお悩みなどもお聞きしている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		家族・移行・地域支援の支援計画への記載は10月から実施。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		職員間で話し合ったり意見を出し合ったりしながら作成している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		様々な指導員が入ってプログラムを行ったり、活動内容についても話し合っ固定化しないようにしている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		集団プログラムで難しかったことを個別で取り組むなど、ニーズに合わせて対応している。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		事前に打ち合わせするだけでなく、どうだったか次回考慮すると良い点なども話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		支援後に気が付いた点を話し合い、次回の支援に活かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		支援の記録を全員で確認することで情報共有している。そこで気が付いた点や考慮することなどについては話し合っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		アセスメントや評価の時しっかりお話を伺い、改善点があるようなら対応している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		サービス担当者会議や連携の際には担当職員など対象児童についてよく知っている職員が参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		必要に応じて関係機関と連携をとっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		必要に応じて移行や他者利用などのサポートしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		引継ぎシートを作成し、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9		定期的な交流を行い、適宜研修に参加するなど行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	7	園訪問の際に活動内容などを伝え、ハッピーを知ってもらえるよう情報共有している。	長時間イベントなどで地域交流できるものがあるか検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		必要に応じて面談の時間を設け、情報共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		今年も9月開催に向け準備している。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		見学や契約時にしっかりご説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		アセスメントの聞き取りの際に確認してから作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		個別支援計画の説明を丁寧に言い、ご質問にはお答えしてから同意いただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		支援の際に時間を作って面談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1	必要に応じて保護者会の開催を行っている。	定期的な保護者会開催を予定している。また、きょうだい参加型のイベントも検討している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1	面談等で相談があったことを検討し、支援に活かせることは取り入れるなど対応している。	職員全体に迅速に共有して支援に反映できるよう努めている。

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		イベントの様子をブログで公表している。	教室内にチラシを掲示したり、予定表にイベント情報を記載し配布している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		漏洩のないよう注意して取り扱っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		お子さまの特性に合わせて対応し、保護者様とは相談しながら支援している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7	連携先など地域の方へ活動内容の周知を行っている。	教室が狭いので大勢を呼ぶことは難しい。今後どんな形で地域貢献できるかを考えていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		各マニュアルを閲覧ファイルで公開し周知している。定期的に訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		BCPに則り災害時を想定した定期的な避難訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		契約時の聞き取りや情報シートで確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		情報シートに記載のものを把握して対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		定期的な避難訓練を行い、安全に支援が行えるよう環境設定している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		災害シートなどで確認し、お伝えしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		原因をしっかりと把握して再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		虐待防止研修を定期的に通講し、意識を高めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		やむをえず身体拘束を行う場合について保護者様に説明しご了承を得ている。	